

## ■卒業論文概要■

■河戸 貴 宏■

## 車と建築の関係

〈BMWヴェルトとメルセデス・ベンツ・ミュージアムを例にして〉

はじめに

## 研究動機

卒業論文のテーマに何をとりあげるべきかを考えた時、論者は車に強い関心があったため、特に車に関する内容を扱うことにした。そこで車について調べたところ、ドイツの世界的有名なメルセデス・ベンツ社とBMW社が、それぞれ建物を新しく造っていることがわかった。つまり、メルセデス・ベンツ社は、ミュージアムを、BMW社は車の生産工場と繋がる販売用の建物を建てていたのである。

そのため、本稿では、この二つの建物をとりあげて、どのように、それぞれの建物が、個々の会社の車のイメージを取り入れているのかを、特に車のデザインの特徴に注目しながら詳しく考察することとした。

## 研究の進め方

具体的な研究の進め方として、第一に、BMW社の建物をとりあげることにする。まず、できるだけ詳しく基本的データを確認する。つぎに、BMW社の車をとりあげて、その車のイメージを検討する。そして、建物と車のデザイ

ンとの関係を明らかにする。

第二に、メルセデス・ベンツ社の建物を検討をする。BMW社の建物の考察と同様に、まず、メルセデス・ベンツ社のミュージアムの建物の基本的なデータを確認する。つぎに、メルセデス・ベンツ社の車の具体的なイメージを考察する。そして、建物と車のデザイン上のイメージとの関係を比較しながら考え、メルセデス・ベンツ社の建物と車のデザインの関係を明らかにする。

第三に、さらに大きな枠組みを考え、第一に検討したBMW社の場合と、第二のメルセデス・ベンツ社の場合とを比較して、どのような違いがあるのかを、検討する。このような検討をおして、車のデザインがひとつのイメージとなつて、建物のデザインにも具体的なところで影響を与えたことを、明らかにしたいと思う。

## 1. 既往の研究

今回のテーマに関して、これまで、どこまで考察されてきているのか。あるいはされているのならば、どのような方法で、どこまで明らかになっているか、について述べる。

これまで、近代建築の研究において、車との関係で、まずあげられるのが、フィアット社の建物であろう。この建物は、イタリアの工業都市のトリノにある。そこを本拠地とする自動車メーカーのフィアット社の工場として、一九二一年にフランス人のジャコム・マッティーによってつくられた。当時のフィアット社のリンゴット工場は、近代建築の巨匠ル・コルビュジエがその美しさを絶賛したと言う。特に彼が指摘した部分が、車の地上から屋上まで上げるために造られた工場建築両端のスパイラル状の斜路である。すなわち、この工場の特徴は、車を屋上にある一、一kmに及ぶテストコースに運ぶために作られたスパイラル状の斜路にあると思われる。

その他には、たとえば、前述した近代建築家ル・コルビュジエが、車そのものをデザインしている。また彼は、一九二八年から一九三二年に、フランスのパリ郊外につくられた住宅のサヴォワ邸を設計した際に、車の動きを考えてデザインしている。

確かに、一階部分にはピロティーを用いて設計されている。その際に曲線を使ったデザインにすることによって、車を玄関に乗り着けることができ、さらに、そのまま車庫に納めやすい設計がおこなわれている。

私見では、近現代の建築のなかで車との関係でとりあげられるのは、これ以外には、今のところ見当たらない。これは、かなり少ない状況といつてよいだろう。

しかし、近現代のなかで、車の果たす役割がいかに大きいかは、改めていうまでもない。そのことを考えると、車と建築との関係も、詳しくみる必要があるといえるだろう。近年には、現代建築の領域において、車と関連する建物がつくられはじめており、そのなかでも、世界的に有名なBMWとベンツ社にかかわる建物がつくられたため、それらを考察対象にとりあげて、検討することにした。

両建物についての研究として、まだ完成して間もないこともあり、GA Dokumentなどに紹介されるかたちでとりあげられており、詳細な検討をする段階にはいたっていない。

論者は、すでに研究動機で述べたように、車に強い関心を持つているため、本論考では、両建物と、車のデザインとの関係について、考察したいと思う。

## 2. BMWと建物と車、ベンツの建物と車のそれぞれの特徴の比較

本章では、二社の建物のデザインと車創りの考え、そしてデザインとの関係を比較検討していきたい。

まず、当然のことながら、両社は、ドイツの車会社であるため、両建物は、車と深い関係を持ってデザインされたことは間違いないだろう。しかも、両者とも、二〇〇六年のドイツ・サッカー・ワールドカップの開催に合わせて計

画された。このように、両建物には、共通性が認められる。しかし、論者には、むしろ、相違性がきわだつていていると考えられる。以下にそのことについて論じたい。

BMWヴェルトとメルセデス・ベンツ・ミュージアムを比較してみると、外観のデザインに違いが認められるが、それは、車創りにおいて、安全への考え方の違いが関係していると思う。その考えの違いは、BMWではアクティブセーフティ、ベンツではパッシブセーフティという乗員の安全を確保する捉え方にある。このような考えの違いが、両建物の根本にあると考えられる。

このような考え方が、どのように両建物のデザインに影響をしているかを見てみると、まず、外観が注目される。BMWヴェルトの外観の特徴である。屋根や軒、ねじれ部などにおいて、直線や曲線また異なる素材を使い分け、メリハリを付けているが、それは、アクティブセーフティの考えにある「走る・曲がる・止まる」という特徴を意識して表現したものと考えられる。

一方、メルセデス・ベンツ・ミュージアムの外観は、三ツ葉型基本とした形の階を何層にも積み重ねることによって重厚なイメージを与えるつくりになっている。そのことは、パッシブセーフティの考えによるもので、事故が起きた際に、乗員を守るために、それぞれの部品の性能を高めることが安全につながると理解に基づくものと思われる。シートベルトやエアバックの性能を高めることも乗員の安

全につながることが、ボディを重厚にすることこそが、最も重要であり、かつ、基本にあると思われる。それゆえ、メルセデス・ベンツ・ミュージアムの外観は同社の車に対する考えを、直接にデザインしたものだといえることができるだろう。

ところで、両社の車のオーナーについてのドイツ国内でのアンケートによれば、BMWのオーナーには、能動的な人が多く、一方のベンツのオーナーには、保守的な人が多いという結果がでている。このような状況から考えると、両建物の内部にあるスロープと通路の使い方には、違いがある。つまり、BMWヴェルトの内部のスロープは大小のランダムな形をとり、メルセデス・ベンツ・ミュージアムの通路は、一定の規則を持った螺旋状のデザインになっている。BMWのスロープのランダムにしている特徴は、自由な動きとも言える。これは、前述したアンケートで示された、能動的なオーナーのイメージと重なるものである。またベンツの通路の規則性のある螺旋状の特徴は、一定な動きにすることで、変わらないことをイメージしている。これは、アンケートの結果に出た、保守的なオーナーのイメージと重複するものだろう。

## おわりに

以上のように、BMW社のBMWヴェルトと、ベンツ社

のメルセデス・ベンツ・ミュージアムには、車を扱う会社として共通し、また、車を建物のデザインに反映させている。

しかし、車の安全性の考えの違いがあり、この違いこそが、両建物のデザインの特徴に大きく影響していると考えられた。また、その考えの違いは、BMW社とベンツ社の車を所有するオーナーの、能動的、あるいは、保守的という違いにも、表われているのではないだろうか。

(芸術文化学科四年)